

与論島活性化について 教育学部英語科 0714600149 松元 智規 (参考文献:与論島の生活と伝承)

先日、与論島を訪れ実際に島を巡り、十分とは言えずとも歴史や実状を学ぶ中で私が出した与論島活性化の方法は「スポーツ施設を建設」することである。具体的には、サッカー場と陸上競技場が一体化した運動競技場や、野球場及びキャンプ地である。以下、これについて考察していきたい。

まず初めに考えなければならないのは、島面積 21 km²の与論島は観光業を軸に島が支えられているということである。つまり、観光のあり方によって島の経済が変化し、それが行政や島の人々の生活にも影響してくるということだ。島を活性化させる方法として、花火大会やコンサートなど何かしらのイベントを開催することが考えられる。しかし、それはそのときのものではない。つまり、一時的な経済効果しか期待できないということだ。重要なことは、年間を通してコンスタントな経済収入が発生することではないだろうか。ほぼ手つかずの美しい自然が残る、琉球文化が現存する、結いの心を今に受け継ぐ心温かい方々がいる、日本のみならず世界をも魅了する、その与論島は十分すぎるほどの可能性を秘めている。それが島の中で完結せず、島の外へシナプスを増やしていくための方法を考えたい。

なぜ、スポーツ施設の建設を活性化の方法としたのかについては3つの理由がある。1つは、確実に一定数の人々を島に誘致できる点である。例えば、野球のキャンプ地を建設したときに、野球ファンはその野球チームを追って全国から集まる。しかも与論島はただのキャンプ地というのではなく、先述の通り観光性が高いので、人々はただのキャンプ参加というのではなく、観光も兼ねることが可能だ。誰もが認める透き通る海や、リーフ、百合ヶ浜に代表される美しい砂浜など、人々を魅了するものが数え切れないほどある。その点で集客が行いやすいのではないだろうか。また、本土だけではなく、沖縄、近隣のアジア諸国にまでその範囲を拡大していくことも十分に可能である。2つめに、与論島の温暖な気候が挙げられる。年間平均が約23度の亜熱帯気候を考慮すると、年間を通しての集客が期待できる。スポーツを行う上で、気温はとても重要になってくるのは自明のことである。屋外スポーツが冬にできることはそのチームにとって、とても大きな強みである。そして、3つ目に私が考えたのは、島を若くすることである。現在、与論島でも続く少子高齢化、及び人口減少は悩ましい点であろう。しかし、野球場やサッカー場などのスポーツ施設ができることで、スポーツマンにとっての恵まれた環境が整う。それを利用する若い人々が増えることで、島外へ出て行くことに歯止めをかけたか、更には島外からもその目的で島に入ってくる人々がいずれはでてきたりするのではないだろうか。それがさらに進むと、島で彼らの子どもを生み、育て、さらに次の世代へと続いていくひとつのサイクルができる。これが島を全体的に若くし、より活発になると考える。

人々が、与論島を一度訪れたらその虜になり、もう一度、いや、何回も訪れたいと思わ

せる。だからこそ、その第一歩を提供することが必要なのである。また、島の始まりを語る神話、出産や婚姻、葬制など古くからある生活や文化は本当に興味深いものである。それも人々を魅了するはずであり、それを絶やすことなく後世にも残していきたいというのが島の人々の願いではないだろうか。島を活性化することで、与論島がこれからも、ひとりでも多くの人々の記憶に残る、東洋の海に浮かぶ一個の真珠であり続けることを切に願う。